Informatica® Cloud Data Integration

Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 コネクタ

Informatica Cloud Data Integration Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 コネクタ
2021 年 2 月

© 著作権 Informatica LLC 2017, 2021

本ソフトウェアおよびマニュアルは、使用および開示の制限を定めた個別の使用許諾契約のもとでのみ提供されています。本マニュアルのいかなる部分も、いかなる手段（電子的複写、写真複写、録音など）によっても、Informatica LLC の事前の承諾なしに複製または転載することは禁じられています。

米政府の権利プログラム、ソフトウェア、データベース、および関連文書や技術データは、米国政府の顧客に配信され、「商用コンピュータソフトウェア」または「商業技術データ」は、該当する連邦政府の取得規制と代理店固有の補足規定に基づきます。このように、使用、複製、開示、変更、および適応は、適用される政府の契約に規定されている制限およびライセンス条項に従うものとし、政府契約の条項によって適当な範囲において、FAR 52.227-19、商用コンピュータソフトウェアライセンスの追加権利を規定します。

Informatica、Informatica ロゴ、Informatica Cloud、および PowerCenter は、米国およびその他の国における Informatica LLC の商標または登録商標です。Informatica の商標の最新リストは、Web（https://www.informatica.com/trademarks.html ）にあります。その他の企業名および製品名は、それぞれの企業の商標または登録商標です。

本ソフトウェアまたはドキュメンテーション（あるいはその両方）の一部は、第三者が保有する著作権の対象となります。必要な第三者の通知は、製品に含まれています。

特許については、https://www.informatica.com/legal/patents.html を参照してください。

免責: 本文書は、一切の保証を伴わない「現状渡し」で提供されるものとし、Informatica LLC は他社の権利の非侵害、市場性および特定の目的への適合性の黙示の保証などを含めて、一切の明示的および黙示的保証の責任を負いません。Informatica LLC では、本ソフトウェアまたはドキュメントに誤りのないことを保証していません。本ソフトウェアまたはドキュメントに記載されている情報には、技術的に不正確な記述や誤植が含まれる場合があります。本ソフトウェアまたはドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。

NOTICES

この Informatica 製品（以下「ソフトウェア」）には、Progress Software Corporation（以下「DataDirect」）の事業子会社である DataDirect Technologies からの特定のドライバ（以下「DataDirect ドライバ」）が含まれています。DataDirect ドライバには、次の用語および条件が適用されます。

1. DataDirect ドライバは、特定物として現存するままの状態で提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。
2. DataDirect または第三者は、予見の有無を問わず発生した ODBC ドライバの使用に関するいかなる直接的、間接的、偶発的、特別、あるいは結果的損害に対して責任を負わないものとします。本制限事項は、すべての訴訟原因に適用されます。訴訟原因には、契約違反、保証違反、過失、厳格責任、詐称、その他の不法行為を含みますが、これらに限るものではありません。

本マニュアルの情報は、予告なしに変更されることがあります。このドキュメントで問題が見つかった場合は、infa_documentation@informatica.com までご報告ください。

Informatica 製品は、それらが提供される契約の条件に従って保証されます。Informatica は、商品性、特定目的への適合性、非侵害性の保証等を含めて、明示的または黙示的ないかなる種類の保証をせず、本マニュアルの情報を「現状のまま」提供するものとします。

発行日: 2021-03-16

目次

序文 5

Informatica のリソース 5

Informatica マニュアル 5

Informatica Intelligent Cloud Services Web サイト 5

Informatica Intelligent Cloud Services コミュニティ 5

Informatica Intelligent Cloud Services マーケットプレース 6

Data Integration コネクタのドキュメント 6

Informatica ナレッジベース 6

Informatica Intelligent Cloud Services Trust Center 6

Informatica グローバルカスタマサポート 6

第 1 章 : Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 コネクタの概要 7

Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 コネクタの概要 7

Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 の概要 8

Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 コネクタの例 8

Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 コネクタのタスクタイプおよびオブジェクトタイプ . . . 8

Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 コネクタの管理 9

第 2 章 : Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 接続 10

Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 接続の概要 10

Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 接続のプロパティ 10

第 3 章 : Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 コネクタでの Synchronization タスク 12

同期タスクでの Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 ソース 12

同期タスクでの Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 ターゲット 13

Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 ターゲット同期タスクの例 15

同期タスクのルールおよびガイドライン 16

第 4 章 : Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 コネクタを使用したマッピングとマッピングタスク 17

Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 コネクタを使用したマッピングの概要 17

マッピングでの Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 ソース 18

マッピングでの Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 ターゲット 19

ターゲットの指定 20

ターゲットのタイムスタンプ 21

第 5 章 : Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 データ型リファレンス 22

データ型リファレンスの概要 22

索引 23

序文

*Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 コネクタ*を使用して、Cloud データ統合を使って Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 に対して読み取りまたは書き込みを行う方法を確認します。Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 接続を作成する方法や、Cloud データ統合で同期タスク、マッピング、およびマッピングタスクを開発および実行する方法を確認します。

Informatica のリソース

Informatica は、Informatica Network やその他のオンラインポータルを通じてさまざまな製品リソースを提供しています。リソースを使用して Informatica 製品とソリューションを最大限に活用し、その他の Informatica ユーザーや各分野の専門家から知見を得ることができます。

Informatica マニュアル

Informatica マニュアルポータルでは、最新および最近の製品リリースに関するドキュメントの膨大なライブラリを参照できます。マニュアルポータルを利用するには、https://docs.informatica.com にアクセスしてください。

製品マニュアルに関する質問、コメント、ご意見については、Informatica マニュアルチーム（infa_documentation@informatica.com）までご連絡ください。

Informatica Intelligent Cloud Services Web サイト

Informatica Intelligent Cloud Services Web サイト（http://www.informatica.com/cloud）にアクセスできます。このサイトには、Informatica Cloud 統合サービスに関する情報が含まれます。

Informatica Intelligent Cloud Services コミュニティ

Informatica Intelligent Cloud Services コミュニティを使用して、技術的な問題について議論し、解決します。また、技術的なヒント、マニュアルの更新情報、FAQ（よくある質問）への答えを得ることもできます。

次の Informatica Intelligent Cloud Services コミュニティにアクセスします。

https://network.informatica.com/community/informatica-network/products/cloud-integration

開発者は、次の Cloud 開発者コミュニティで詳細情報を確認したり、ヒントを共有したりできます。

https://network.informatica.com/community/informatica-network/products/cloud-integration/cloud-developers

Informatica Intelligent Cloud Services マーケットプレース

Informatica マーケットプレイスにアクセスすると、Data Integration コネクタ、テンプレート、およびマップレットを試用したり購入したりできます。

https://marketplace.informatica.com/

Data Integration コネクタのドキュメント

Data Integration コネクタのドキュメントには、マニュアルポータルからアクセスできます。マニュアルポータルを利用するには、https://docs.informatica.com にアクセスしてください。

Informatica ナレッジベース

Informatica ナレッジベースを使用して、ハウツー記事、ベストプラクティス、よくある質問に対する回答など、製品リソースを見つけることができます。

ナレッジベースを検索するには、https://search.informatica.com にアクセスしてください。ナレッジベースに関する質問、コメント、ご意見の連絡先は、Informatica ナレッジベースチーム（KB_Feedback@informatica.com）です。

Informatica Intelligent Cloud Services Trust Center

Informatica Intelligent Cloud Services Trust Center は、Informatica のセキュリティポリシーおよびリアルタイムでのシステムの可用性について情報を提供します。

Trust Center（https://www.informatica.com/trust-center.html）にアクセスします。

Informatica Intelligent Cloud Services Trust Center にサブスクライブして、アップグレード、メンテナンス、およびインシデントの通知を受信します。Informatica Intelligent Cloud Services Status ページには、すべての Informatica Cloud 製品の実稼働ステータスが表示されます。メンテナンスの更新はすべてこのページに送信され、停止中は最新の情報が表示されます。更新と停止の通知がされるようにするには、Informatica Intelligent Cloud Services の 1 つのコンポーネントまたはすべてのコンポーネントについて更新の受信をサブスクライブします。すべてのコンポーネントにサブスクライブするのが、更新を逃さないようにするための最良の方法です。

登録するには、https://status.informatica.com/に移動し、**［更新を購読登録］**をクリックします。その後、電子メール、SMS テキストメッセージ、Webhook、RSS フィードとして、またはこの 4 つを任意に組み合わせて送信された通知を受信することを選択ができます。

Informatica グローバルカスタマサポート

電話またはオンラインでカスタマサポートセンターに連絡できます。

オンラインサポートについては、Informatica Intelligent Cloud Services の**［サポート要求の送信］**をクリックして下さい。またオンラインサポートを使用して問題を記録することもできます。オンラインサポートを利用するには、ログインが必要です。https://network.informatica.com/welcome でログイン要求できます。

Informatica グローバルカスタマサポートの電話番号は、Informatica の Web サイト https://www.informatica.com/services-and-training/support-services/contact-us.html に掲載されています。

第 1 章

Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 コネクタの概要

この章では、以下の項目について説明します。

- Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 コネクタの概要, 7 ページ
- Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 の概要, 8 ページ
- Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 コネクタの例, 8 ページ
- Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 コネクタのタスクタイプおよびオブジェクトタイプ, 8 ページ
- Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 コネクタの管理, 9 ページ

Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 コネクタの概要

Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 コネクタを使用すると、Data Integration から Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 に接続できます。

Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 コネクタを使用して、Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 との間で、区切られたデータの読み取りと書き込みを行います。Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 オブジェクトを synchronization タスク、マッピング、および mapping タスクのソースおよびターゲットとして使用することができます。

Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 の概要

Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 を使用すると、データをサイズ、構造、および形式に関係なく格納できます。Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 では、大量のデータを処理して、早期にビジネスの成果を上げることができます。

Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 は、以下のプライマリサービスを組み合わせたものです。

- Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1: Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 は、組織の構造化データ、半構造化データ、および非構造化データをネイティブ形式で格納する、Hadoop 分散ファイルシステム（HDFS）互換のデータリポジトリです。データサイエンティストやデータアナリストは、Data Lake のデータを使用して特定のパターンがないか調べたうえで、分析したデータをデータウェアハウスに移動できます。
- Azure HDinstight: Azure HDInsight は、クラウドに設定される Apache Hadoop 分散システムです。HDinsight は、Hadoop システムの下で Apache HBase、Apache Spark、Apache Storm などの Hadoop コンポーネントをサポートしています。
- Data Lake Analytics: Data Lake Analytics は、分散インフラストラクチャを管理します。Microsoft Azure Data Lake Store Analytics では、リソースを動的に割り当てたり、割り当てを解除したりできるため、使用したサービスに対して料金を支払うことができます。

Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 コネクタの例

あなたは、大手金融企業でデータアナリストとして働いています。Microsoft Azure Data Lake Analytics を使用してリスク管理、不正検出、およびその他の分析を行っています。分析を行うには、区切りデータを Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 に書き込む必要があります。

Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 コネクタを使用して、リレーショナルデータベースやトランザクションデータベース、Salesforce といった他のアプリケーションなどのソースからデータを読み取り、Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 にデータを書き込むための synchronization タスクまたは mapping タスクを作成できます。Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 でデータを利用できるようになったら、データ分析を実行できます。

Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 コネクタのタスクタイプおよびオブジェクトタイプ

次の表は、Data Integration タスクに含めることができる Microsoft Azure Data Lake Gen1 V2 のオブジェクトタイプを示しています。

タスクタイプ	ソース	ターゲット	ルックアップ
同期	○	はい	×
Mapping	○	○	×

Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 コネクタの管理

タスクで Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 オブジェクトを使用する前に、管理者は以下のタスクを実行する必要があります。

- Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 アカウントを作成します。
- Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 および Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 のディレクトリへのアクセスをユーザーに許可します。
- Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 でのサービス間認証用に Azure AD Web アプリケーションを作成します。Web アプリケーションのサービス間認証については、https://kb.informatica.com/howto/6/Pages/20/512374.aspx を参照してください。

  注: コネクタを使用してアプリケーションで作成されたフォルダまたはファイルにアクセスするためのスーパーユーザー特権があることを確認します。

第 2 章

Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 接続

この章では、以下の項目について説明します。

- Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 接続の概要, 10 ページ
- Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 接続のプロパティ, 10 ページ

Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 接続の概要

Data Integration から Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 データにアクセスするための Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 接続を作成します。接続は、［接続］ページか、タスクの作成時に作成できます。接続を作成すると、組織へのアクセス権を持つすべてのユーザーがその接続を使用できるようになります。

synchronization タスクまたは mapping タスクを作成するときに接続を使用します。Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 のソースとターゲットは、マッピング、mapping タスク、または synchronization タスクで指定できます。

Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 接続のプロパティ

Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 接続をセットアップするときは、接続プロパティを設定する必要があります。

以下の表に、Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 接続のプロパティを示します。

接続プロパティ	説明
接続名	Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 接続の名前。
説明	接続の説明。説明は、765 文字を超えることはできません。

接続プロパティ	説明
タイプ	接続タイプ。Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 接続を選択します。
ランタイム環境	タスクを実行するランタイム環境の名前。
ADLS アカウント名	Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 アカウントの名前。
ClientID	Active Directory で OAuth 認証を完了するためのアプリケーションの ID。
クライアントシークレット	Active Directory で OAuth 認証を完了するためのクライアント秘密鍵。
ディレクトリ	データの読み取りまたは書き込みに使用する Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 ディレクトリ。デフォルトはルートディレクトリです。
AuthEndpoint	クライアント ID およびクライアントシークレットに基づく認証が完了する OAuth 2.0 トークンエンドポイント。

クライアント ID、クライアントシークレット、および AuthEndpoint の作成の詳細については、『*Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 のドキュメント*』を参照してください。

第 3 章

Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 コネクタでの Synchronization タスク

この章では、以下の項目について説明します。

- 同期タスクでの Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 ソース, 12 ページ
- 同期タスクでの Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 ターゲット, 13 ページ
- Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 ターゲット同期タスクの例, 15 ページ
- 同期タスクのルールおよびガイドライン, 16 ページ

同期タスクでの Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 ソース

Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 ソースを使用するように synchronization タスクを構成する場合は、ソースプロパティを構成できます。

ソースプロパティは、Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 接続を指定するときに、Synchronization タスクウィザードの［**ソース**］ページに表示されます。

全般プロパティには、Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 ソースの名前と説明が表示されます。ソースオブジェクトのソースプロパティを設定します。

以下の表に、Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 ソースプロパティを示します。

プロパティ	説明
接続	接続の名前。
ソースタイプ	［シングル］を選択します。

プロパティ	説明
ソースオブジェクト	synchronization タスクのソースオブジェクト。データの読み取り元のファイルを選択します。
形式オプション	**[形式オプション]** ダイアログボックスを開き、ファイルの形式を定義します。 次の形式オプションを設定します。 - 区切り文字: 区切り文字。カンマ、タブ、コロン、セミコロンなどのパラメータを設定できます。 - テキスト修飾子: テキストを修飾する文字。単一引用符、二重引用符などのパラメータを設定できます。 - エスケープ: エスケープ文字。

以下の表に、Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 ソース詳細プロパティを示します。

プロパティ	説明
Directory Path Override	データの読み取りに使用する Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 ディレクトリ。デフォルトはルートディレクトリです。 実行時に指定されたディレクトリパスで、接続の作成時に指定されたパスが上書きされます。
File Name Override	synchronization タスクのソースオブジェクト。データの読み取り元のファイルを選択します。 実行時に指定したファイルによって、ソースオブジェクトに指定したファイルが上書きされます。
Import Column From First Line	ヘッダー行の読み取り動作を指定します。パラメータを次のように設定できます。 - 有効: 1 行目はヘッダー行として扱われ、実行時にスキップされます。 - 無効: ヘッダー行を含むファイル全体を読み取ります。ヘッダー行がないファイルには、このオプションを使用します。 **注**: メタデータのインポート中に、ソースファイルにヘッダー行が必要です。

同期タスクでの Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 ターゲット

Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 ターゲットで操作を実行するように synchronization タスクを構成する場合は、ターゲットプロパティを構成できます。

ターゲットプロパティは、Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 接続を指定するときに、Synchronization タスクウィザードの **[ターゲット]** ページに表示されます。全般プロパティには、Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 ターゲットの名前と説明が表示されます。Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 にデータを書き込む場合は、[ターゲットの作成] フィールドを使用して、実行時にターゲットを作成できます。ソースに基づいて新しいターゲットを作成する場合は、マッピングからすべてのバイナリフィールドを削除する必要があります。

以下の表に、Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 ターゲットプロパティを示します。

プロパティ	説明
接続	ターゲット接続の名前。
ターゲットオブジェクト	タスクのターゲットオブジェクトを指定します。
形式オプション	**[形式オプション]** ダイアログボックスを開き、ファイルの形式を定義します。 次の形式オプションを設定します。 - 区切り文字: 区切り文字。カンマ、タブ、コロン、セミコロンなどのパラメータを設定できます。 - テキスト修飾子: テキストを修飾する文字。単一引用符、二重引用符などのパラメータを設定できます。 - エスケープ: エスケープ文字。
ターゲットの作成	ターゲットを作成します。ターゲットオブジェクトの名前とパスを入力して、使用するソースフィールドを選択します。デフォルトでは、すべてのソースフィールドが使用されます。 日付データ型の場合は、[フィールドマッピング] タブの [タイプの編集] を使用して、精度を 29 に、スケールを 0 に変更します。日付データ型の精度とスケールの値を変更しないと、タスクが失敗する可能性があります。
子オブジェクト	Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 コネクタには適用されません。

以下の表に、Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 コネクタの詳細ターゲットプロパティを示します。

詳細ターゲットプロパティ	説明
ディレクトリパスのオーバーライド	データの書き込みに使用する Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 ディレクトリ。デフォルトはルートディレクトリです。 ディレクトリが存在しない場合には、Secure Agent によって作成されます。実行時に指定されたディレクトリパスで、接続の作成時に指定されたパスが上書きされます。
ファイル名上書き	synchronization タスクのソースオブジェクト。データの書き込み元のファイルを選択します。 実行時に指定したファイルによって、ターゲットオブジェクトに指定したファイルが上書きされます。
新たに作成されたファイルの圧縮	True に設定すると、新たに作成されたファイルを gzip 形式で圧縮します。フラットファイルにのみ適用されます。
ファイルが存在する場合	Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 にファイルが存在する場合は、既存のファイルを上書きするか、追加するかを選択できます。現在のタスクを失敗させることもできます。
ヘッダーの生成	ヘッダー行の書き込み動作を指定します。パラメータを次のように設定できます。 - 有効: ヘッダー行を書き込みます。 - 無効: ヘッダー行を書き込みません。 **注**: メタデータのインポート中に、ターゲットファイルにヘッダー行が必要です。
分散カラム	該当せず

詳細ターゲットプロパティ	説明
成功ファイルディレクトリ	該当せず
エラーファイルのディレクトリ	なし

Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 ターゲット同期タスクの例

あなたは、金融企業のデータアナリストです。パイプラインにあるビジネスチャンスに対してデータ分析を実行する必要があります。

挿入操作で synchronization タスクを設定し、以下のオブジェクトを設定します。

ソース

synchronization タスクのソースオブジェクトは Salesforce です。Salesforce に接続し、商談オブジェクトからデータを読み取るには、Salesforce 接続を使用します。synchronization タスクで商談ソースオブジェクトを使用します。ソースには、[ID]、[アカウント ID]、[名前]、[金額]、[想定金額] などのフィールドがあります。

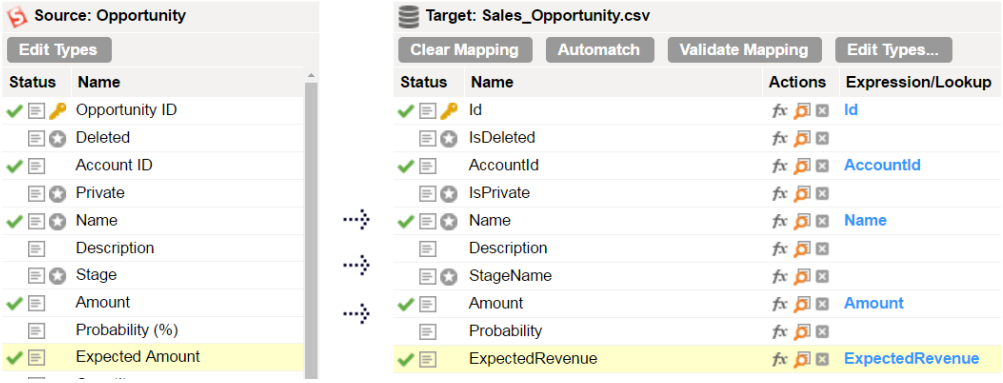
ターゲット

synchronization タスクのターゲットは Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 です。Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 接続を使用して、Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 に接続します。ターゲットには、[ID]、[アカウント ID]、[名前]、[金額]、[想定売上] などのフィールドがあります。

マッピング

商談ソースオブジェクトのプライマリフィールドをターゲットオブジェクトにマップします。

次の画像は、ソースを商談ターゲットにマッピングする様子を示しています。



synchronization タスクを実行すると、Secure Agent は取得した商談情報をターゲットテーブルに書き込みます。

次の画像は、synchronization タスクでマップしたフィールドに基づいて、Secure Agent が Salesforce から取得し、Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 に書き込むデータを示しています。

Id	AccountId	Name	Amount	ExpectedRevenue
0069000000gsgUXAAY	0019000000lchUNAAY	Prefix_Prefix_Grand Hotels Guest Portable Generato	250000	125000
0069000000gsgUYAAY	0019000000lchUJAAY	Prefix_Prefix_Edge SLA Update oAuth Update oAuthSu	60000	60000
0069000000gsgV1AAI	0019000000lchUNAAY	Prefix_Grand Hotels Guest Portable Generators Upda	250000	125000
0069000000gsgV2AAI	0019000000lchUJAAY	Prefix_Edge SLA Update oAuth Update oAuth	60000	60000
0069000000gsgw2AAA	0019000000lchUQAAY	Prefix_United Oil Emergency Generators Update oAut	440000	440000
0069000000gsgw3AAA	0019000000lchUPAAY	Prefix_Prefix_University of AZ Installations Updat	100000	75000
0069000000gsgV6AAI	0019000000lchUNAAY	Prefix_Grand Hotels Guest Portable Generators Upda	250000	125000
0069000000gsgV7AAI	0019000000lchUJAAY	Prefix_Edge SLA Update oAuth Update oAuth	60000	60000
0069000000hSebGAAS	0019000000lchUPAAY	Prefix_Mari_Prefix_Mari_Prefix_Mari_Prefix_Prefix_Prefix_Uni	90000	90000
0069000000hSebHAAS	0019000000lchUPAAY	Prefix_Mari_Prefix_Mari_Prefix_Mari_Prefix_Prefix_Prefix_Pre	100000	75000

同期タスクのルールおよびガイドライン

同期タスクを設定するときは、次のルールとガイドラインを考慮します。

- 同期タスクのデータプレビュー時および実行時に［テキスト修飾子］形式オプションが無視されます。
- Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 ターゲットを指定すると、Secure Agent には書き込み権限のない不適切なファイルが含まれます。
- Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 にデータを書き込むときにタブ区切り文字を指定すると、データをプレビューできません。
- Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 から 1 GB を超えるファイルを読み取ると、データプレビューに時間がかかります。
- Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 からデータを読み取るときは、スペース区切り文字を指定しないでください。

第 4 章

Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 コネクタを使用したマッピングとマッピングタスク

この章では、以下の項目について説明します。

- Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 コネクタを使用したマッピングの概要, 17 ページ
- マッピングでの Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 ソース, 18 ページ
- マッピングでの Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 ターゲット, 19 ページ

Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 コネクタを使用したマッピングの概要

マッピングを作成するには Mapping Designer を使用します。マッピングを作成するときには、単一の Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 オブジェクトを表すようにソースまたはターゲットを設定します。

Secure Agent がターゲットにデータを書き込む前に、ソースとターゲットからのデータのフローと必要なトランスフォーメーションについて説明します。mapping タスクを作成するときに、使用するマッピングを選択します。Mapping タスクウィザードを使用して、mapping タスクを作成します。mapping タスクは、マッピングで定義したデータフローロジックに基づいてデータを処理します。

マッピングでの Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 ソース

マッピングでは、単一の Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 オブジェクトを表すようにソーストランスフォーメーションを設定できます。

以下の表に、ソーストランスフォーメーションで設定できる Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 ソースプロパティを示します。

プロパティ	説明
接続	ソース接続の名前。
ソースタイプ	［単一オブジェクト］または［パラメータ］を選択します。
オブジェクト	ソースオブジェクトの名前。
形式オプション	**［形式オプション］**ダイアログボックスを開き、ファイルの形式を定義します。 次の形式オプションを設定します。 - 区切り文字: 区切り文字。区切り文字にはカンマを使用します。 - テキスト修飾子: テキストを修飾する文字。単一引用符、二重引用符などのパラメータを設定できます。 - エスケープ: エスケープ文字。

以下の表に、Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 ソース詳細プロパティを示します。

プロパティ	説明
ディレクトリパスのオーバーライド	データの読み取りに使用する Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 ディレクトリ。デフォルトはルートディレクトリです。 実行時に指定されたディレクトリパスで、接続の作成時に指定されたパスが上書きされます。
ファイル名のオーバーライド	ソースオブジェクト。データの読み取り元のファイルを選択します。 実行時に指定したファイルによって、オブジェクトに指定したファイルが上書きされます。
最初の行からカラムをインポートする	ヘッダー行の読み取り動作を指定します。パラメータを次のように設定できます。 - 有効: 1 行目はヘッダー行として扱われ、実行時にスキップされます。 - 無効: ヘッダー行を含むファイル全体を読み取ります。ヘッダー行がないファイルには、このオプションを使用します。 **注**: メタデータのインポート中に、ソースファイルにヘッダー行が必要です。

マッピングでの Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 ターゲット

マッピングでは、Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 オブジェクトをターゲットとして使用できます。

Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 ターゲットオブジェクトを使用する場合は、Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 接続をターゲットとして選択できます。マッピングウィザードの［ターゲット］ページで、Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 ターゲットプロパティを設定できます。Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 にデータを書き込む場合は、［ターゲットの作成］フィールドを使用して、実行時にターゲットを作成できます。ソースに基づいて新しいターゲットを作成する場合は、フィールドマッピングからすべてのバイナリフィールドを削除する必要があります。

以下の表に、ターゲットトランスフォーメーションで設定できる Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 ターゲットプロパティを示します。

プロパティ	説明
接続	ターゲット接続の名前。
ターゲットタイプ	**［単一オブジェクト］** を選択します。
オブジェクト	ターゲットオブジェクトの名前。
形式オプション	**［形式オプション］** ダイアログボックスを開き、ファイルの形式を定義します。 次の形式オプションを設定します。 - 区切り文字: 区切り文字。区切り文字にはカンマを使用します。 - テキスト修飾子: テキストを修飾する文字。単一引用符、二重引用符などのパラメータを設定できます。 - エスケープ: エスケープ文字。 **注**: ［テーブルの作成］を選択した場合、形式オプションは無視されます。
ターゲットの作成	ターゲットを作成します。ターゲットオブジェクトの名前とパスを入力して、使用するソースフィールドを選択します。デフォルトでは、すべてのソースフィールドが使用されます。 日付データ型の場合は、［フィールドマッピング］タブの［タイプの編集］を使用して、精度を 29 に、スケールを 0 に変更します。日付データ型の精度とスケールの値を変更しないと、タスクが失敗する可能性があります。
操作	ターゲット操作。

以下の表に、Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 の詳細ターゲットプロパティを示します。

詳細ターゲットプロパティ	説明
ディレクトリパスのオーバーライド	データの書き込みに使用する Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 ディレクトリ。デフォルトはルートディレクトリです。 ディレクトリが存在しない場合には、Secure Agent によって作成されます。実行時に指定されたディレクトリパスで、接続の作成時に指定されたパスが上書きされます。
ファイル名上書き	ターゲットオブジェクト。データの書き込み元のファイルを選択します。 実行時に指定したファイルによって、オブジェクトに指定したファイルが上書きされます。
新たに作成されたファイルの圧縮	True に設定すると、新たに作成されたファイルを gzip 形式で圧縮します。フラットファイルにのみ適用されます。
ファイルが存在する場合	Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 にファイルが存在する場合は、既存のファイルを上書きするか、追加するかを選択できます。現在のタスクを失敗させることもできます。
ヘッダーの生成	ヘッダー行の書き込み動作を指定します。パラメータを次のように設定できます。 - 有効: ヘッダー行を書き込みます。 - 無効: ヘッダー行を書き込みません。 **注**: メタデータのインポート中に、ターゲットファイルにヘッダー行が必要です。
分散カラム	該当せず
成功ファイルディレクトリ	該当せず
エラーファイルのディレクトリ	なし

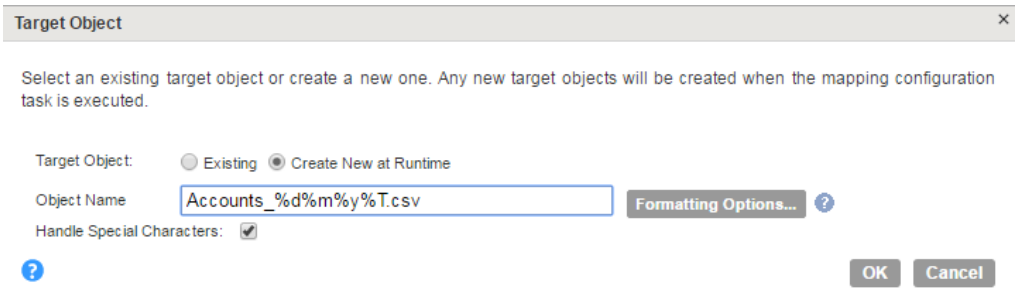
ターゲットの指定

既存のターゲットを使用するか、ターゲットを作成して、マッピングの結果を格納するためにことができます。ターゲットを作成することを選択した場合、エージェントはタスクの実行時にターゲットを作成します。

ターゲットのプロパティを指定するには、次の手順に従います。

1. マッピングでターゲットトランスフォーメーションを選択します。
2. **[受信フィールド]** タブで、ターゲットに含めるフィールドを指定するフィールドルールを設定します。
3. ターゲットを指定するには、**[ターゲット]** タブをクリックします。
4. ターゲット接続を選択します。
5. ターゲットタイプとして **[単一オブジェクト]** または **[パラメータ]** を選択します。
6. ターゲットオブジェクトまたはパラメータを指定します。
   - 実行時にターゲットファイルを作成するには、`Accounts.csv` のように、拡張子を含めてターゲットファイルの名前を入力します。
   - ファイル名にタイムスタンプを含める場合は、**[特殊文字の処理]** をクリックして、ファイル名に特殊文字を追加します。例えば、すべてのタイムスタンプ情報を含める場合は、`Accounts_%d%m%y%T.csv` のように指定します。

7. ファイルの形式オプションを設定する場合は、**[形式オプション]** をクリックし、**[OK]** をクリックします。
8. **[選択]** をクリックしてターゲットオブジェクトを選択します。既存のターゲットオブジェクトを選択するか、実行時に新しいターゲットオブジェクトを作成し、オブジェクト名を指定することができます。



9. 必要に応じて、ターゲットの詳細プロパティを指定します。

ターゲットのタイムスタンプ

実行時にターゲットを作成する場合、タイムスタンプ情報をファイル名に追加して、ファイルがいつ作成されたのかを示すことができます。

ターゲットファイルのファイル名を指定する場合は、Linux STRFTIME 関数は、mapping タスクでファイル名にタイムスタンプ情報を含めるために使用される形式です。タイムスタンプは、組織のタイムゾーンに基づいています。

次の表に、マッピングまたは mapping タスクで使用される一般的な STRFTIME 関数の形式を示します。

特殊文字	説明
%d	2 桁の 10 進数で表される日（01～31）。
%m	2 桁の 10 進数で表される月（01～12）。
%y	2 桁の 10 進数で表される、世紀を含まない年（00～99）。
%Y	世紀を含む年（2015 など）。
%T	24 時間表記の時刻（%H:%:M:%S に相当）。
%H	24 時間表記の時間（00～24）。
%l	12 時間表記の時間（01～12）。
%M	10 進数で表される分（00～59）。
%S	10 進数で表される秒（00～60）。
%p	AM または PM。

第 5 章

Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 データ型リファレンス

- データ型リファレンスの概要, 22 ページ

データ型リファレンスの概要

Data Integration では、Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 によるマッピング、synchronization タスク、および mapping タスクで次のデータ型を使用します。

Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 **ネイティブデータ型**

フィールドのメタデータを編集しようとすると、Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 データ型がソーストランスフォーメーションとターゲットトランスフォーメーションに表示されます。

トランスフォーメーションデータ型

トランスフォーメーションで表示されるデータ型のセットです。ANSI SQL-92 汎用データ型に基づく内部データ型で、プラットフォーム間でデータを移動するとき Secure Agent によって使用されます。トランスフォーメーションデータ型は、マッピングおよび synchronization タスク。

Data Integration は、ソースデータを読み取るときに、ネイティブデータ型を対応するトランスフォーメーションデータ型に変換してから、データのトランスフォームを実行します。Data Integration は、ターゲットに書き込むときに、トランスフォーメーションデータ型を対応するネイティブデータ型に変換します。

次の表は、Data Integration でサポートされる Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 データ型と、対応するトランスフォーメーションデータ型を示しています。

Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 **ネイティブデータ型**	**トランスフォーメーションデータ型**	**説明**
String	String	1〜104,857,600 文字

索引

C

Cloud Application Integration コミュニティ
URL 5
Cloud 開発者コミュニティ
URL 5

I

Informatica Intelligent Cloud Services
Web サイト 5
Informatica グローバルカスタマサポート
連絡先情報 6

M

Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1
概要 8
Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2
ソーストランスフォーメーション 18
ターゲットトランスフォーメーション 19
マッピングでのソース 18
マッピングのターゲット 19
接続プロパティ 10
同期タスク 13
Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 コネクタ
タスクタイプおよびオブジェクトタイプ 8
概要 10
例 8
Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 マッピング
例 15
Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 接続
概要 7
Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V3 ソース
同期タスク 12

W

Web サイト 5

あ

アップグレード通知 6

し

システムステータス 6

す

ステータス
Informatica Intelligent Cloud Services 6

そ

ソース
Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 マッピング 18
ソーストランスフォーメーション
Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 プロパティ 18

た

ターゲット
Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 マッピング 19
ターゲットトランスフォーメーション
Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 プロパティ 19
ターゲットの作成
ターゲットファイルのパラメータ化 21
タイムスタンプの追加 21
ターゲットの指定 20

て

データ型リファレンス
概要 22

ま

マッピング
Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 ソースプロパティ 18
Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1 V2 ターゲットプロパティ 19

め

メンテナンスの停止 6